

令和6年度 徳島県立徳島中央高等学校【定時制課程昼間部】学校評価総括評価表

【令和6年度 徳島県立徳島中央高等学校学校経営方針】

1 本校の教育目標

(1) 基本目標

生命を大切にする心を育み、心豊かな人間を育成する。学ぶ意欲と熱意に応えて、多様な学習形態と学習機会を提供し、一人一人の生徒が主体的に学ぶことができる定時制・通信制教育を展開する。

(2) 重点目標（中期目標）

- ① 基本的生活習慣を確立し、生徒一人一台端末を活用して、基礎学力を定着させるとともに、キャリア教育、体験的活動と教育的支援の拡充を図ることにより、社会的・職業的自立ができる生徒を育成する。
- ② 人権教育、道徳教育、安全教育を推進し、人権尊重の精神を尊び、自主的・自立的に行動できる人間を育成する。
- ③ 目標に向かって地道に努力する生徒を育成し、一人一人の生徒の良さを積極的に見つけ、伸ばしていく学校づくりに努める。
- ④ 学校運営のビジョンを教職員と保護者、地域や産業界の方々と共有し、互いにパートナーとして、連携・協働のもとに「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組を充実させていく。

2 本年度の重点目標

(1) 生徒の学びの充実

- ① 徳島県GIGAスクール構想の推進（教育DXを加速）
- ② 人権教育の充実（他者の思いや考え方を的確に理解できる想像力を育成）
- ③ 特別支援教育の充実（特別な支援を必要とする生徒への対応）
- ④ 主権者、消費者、防災教育の充実（成人年齢引下げに対応した安全で安心な教育）

(2) 教職員の資質向上

- ① コンプライアンスの推進（わいせつ、ハラスマント行為の根絶徹底と高い倫理観、強い使命感の醸成）
- ② 次世代を見据えた人材育成（校内研修の充実とチーム学校として年代を超えた学び合い）
- ③ 働き方改革の推進（業務の効率化と簡素化を推進）

(3) 学校の特色化、魅力化（目指す学校像）

- ① スクールポリシーの共有（生徒一人一人が主体的な学びに取り組むことを支援）
- ② 地域に開かれた学校（定期的な情報発信）
- ③ 生徒、保護者が学びたい、学ばせたいと思う学校（様々な体験活動を通じて豊かな人間性や社会性を育む）
- ④ 地域から信頼され、愛される学校（保護者、地域住民や学校運営協議等の意見を的確に反映させる）

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策	
	評 価 指 標 と 活 動 計 画		評 価			
(1)	評価指標(数値目標) ① ①-1 ICTを効果的に活用して分かる授業を実践し、授業評価による生徒の授業満足度を80%以上にする。 (教務情報課) ①-2 進路関連行事が勤労観・職業観及び対人技能の向上に役立ったとする生徒を85%以上にする。 (進路指導課) ①-3 「キャリアパスポート」等の効果的な活用により、卒業後の進路を意識して学校生活が送れたという生徒を85%以上にする。 (進路指導課) ①-4 定期考查に向けて、計画的に学習に取り組んだ生徒を50%以上にする。 (教務情報課)	活動計画 ①-1 教員の相互授業参観週間（学び愛週間）を年1回設定とともに、ICT教育に関する研修を充実させ授業力向上を図る。 (教務情報課) ①-2 生徒の実態や志望に応じた進路ガイダンスや講演会等を、大学・専門学校・企業等と連携しながら計画実施する。 (進路指導課) ①-3 将来につながる就労体験やオープンキャンパス、体験的活動に意欲的に参加させ、ICTを活用したポートフォリオを充実させ進路目標を明確にさせる。 (進路指導課) ①-4 定期考查1週間前に学習計画表を配布し、計画的に家庭学習に取り組む手立てを講じる。 (教務情報課)	実施状況及び評価指標による達成度 ①-1 電子黒板を活用しての授業が増えしており、80%以上の生徒が授業に真面目に取り組めたと回答している。 職員研修(Copilotの活用)により、職員のスキルの向上につながった。 ①-2 進路ガイダンス等を年4回実施した。「将来の進路に役立った」とする生徒は81%であった。 ①-3 職場見学やワークショップをはじめ、総合的な探究の時間コース別の各講座で体験活動を行った。75%の生徒が「自分の能力向上や資格取得または教養を高めることにつながった」と回答した。 ①-4 考査時間割やテスト範囲表を配布し、考査への意識付けを行ったが、「計画的にテスト勉強をした」と答えた生徒は、全体の29%にとどまった。	(評定) B (所見) ① 教員相互の学び愛週間により、授業の工夫や生徒との対応など学ぶことが多かった。 ② 進路ガイダンスでの気づきや学びを、進路選択に結びつけることができた。 ③ 進路決定に向けて2年次から職場見学に参加した生徒がいたりと、前向きな行動が見られた。 ④ コツコツ真面目に勉強する生徒がいる一方、22%の生徒が「テスト勉強をしない」と回答するなど、考査に対する意識の低さがみられた。	①-1 生徒の実態に応じてのICTの活用等、様々な教育支援が展開されている。 ② 進路ガイダンスは生徒の希望に添えた内容になっている。 ③ キャリアアップにつながる各種体験的活動が行われている。 ④ 定期考査に対する意識の低さについて対策を講じる必要がある。	○ 次年度も授業の満足度が高まるよう、日々努力や工夫を重ねていきたい。 ○ 卒業後の進路選択としてフリーランスを選ぶ生徒や未決定者を減らすよう、進路指導を充実させ、多様な系統的キャリア教育を推進する。 ○ 家庭学習の習慣が身につくよう、その定着を図る方法を工夫する。 ○ 定期考査の重要性を再認識させるとともに、評価基準についての教員の共通理解を図る必要がある。

	<p>①-5 基礎学力診断のためのトライテストを年3回実施し、各教科のテスト勉強に1時間以上取り組んだ生徒を80%以上にする。 (進路指導課)</p>	<p>①-5 トライテストの対策問題集に確実に取り組ませるとともに、個別課題に取り組ませ基礎学力の定着を図る。 (進路指導課)</p>	<p>①-5 トライテストの勉強に1時間以上取り組んだ生徒は40%であった。3時間以上取り組んだ生徒は5%に止まった。</p>	<p>トライテスト課題の取組については、課題の解答を写すだけで実施したつもりになっている傾向がある。</p>	<p>①-5 学習意欲が向上するような工夫をしていただきたい。</p>	<p>○ トライテストの重要性を理解し、計画的に学習できる態度を身に付けさせる。</p>
	<p>①-6 「総合的な探究の時間」コース別の内容を充実させ、非常に意欲的に取り組んだ生徒を70%以上にする。 (進路指導課)</p>	<p>①-6 生徒のニーズに応じたコースを設定すると共に、地域や専門機関と連携して効果的な体験活動を計画実施する。 (進路指導課)</p>	<p>①-6 総合的な探究の時間のコース別学習に意欲的に取り組んだ生徒は82%であった。</p>	<p>今年度は昨年度に引き続き、総合的な探究の時間のコース別学習の成果発表会を1月に計画し、全ての生徒が発表に関わるよう計画をした。どのコースも生徒が自主的に取り組む様子が顕著に見られた。</p>	<p>①-6 意欲的に取り組めた活動については、来年度も継続していただきたい。</p>	<p>○ 総合的な探究の時間の学習内容の検討や成果発表会のより一層の充実を図り、生徒のキャリア形成に生かす。</p>
②	<p>② 生徒が学校で安心して過ごすことができ、さまざまな人権学習を通してレジリエンスを獲得し、人権意識が涵養されたとする生徒を80%以上にする。 (特支人権教育課)</p>	<p>②-1 人権学習ホームルーム活動や人権関連行事を通してレジリエンスを獲得するための人権教育に取り組み、さまざまな人権課題へ真摯に向き合い、主体的創造的に解決できる能力と実践力をもつ民主的な人間を育成する。 (特支人権教育課)</p> <p>②-2 全教職員が「隠れたカリキュラム」で人権教育を推進し、ポジティブな行動支援を広めつつ浸透させる。 (特支人権教育課)</p>	<p>②-1 人権学習ホームルーム活動を年間6回実施し、人権関連行事を通して人権意識が高まったとする生徒が78.4%であった。</p> <p>②-2 全教職員が「隠れたカリキュラム」で人権教育を推進するための人権研修として、「ブリーフセラピー」の研修を実施し、ポジティブ行動支援ができるようスキルアップを図った。</p>	<p>② 生徒から積極的な意見が出され、深まりのある人権学習が展開できた。</p> <p>「隠れたカリキュラム」を想定した合理的配慮がなされているホームルーム運営ができた。</p>	<p>②-1 人権意識が高まるホームルーム活動が行われている。</p> <p>②-2 人権教育を中心据えた教育活動を今後もお願いしたい。</p>	<p>○ 様々な困難を抱える生徒が、安心で安全な学校生活が送れるよう、人権が配慮された学校運営に努めたい。</p> <p>○ 本校人権教育の根幹ともなる「隠れたカリキュラム」の下、さらなる共通理解を図り、人権教育の推進を目指したい。</p>
③	<p>③-1 相談支援体制を整え、悩みや不安を相談しやすい環境が整っているとする生徒を80%以上にする。 (特支人権教育課)</p>	<p>③-1 カウンセリングや通級による指導を、生徒や保護者に周知するとともに、スクールカウンセラーや専門機関等との連携を深め、全教職員でポジティブな行動支援を</p>	<p>③-1 スクールカウンセラー・支援相談員・スクールソーシャルワーカーに加え、今年度は特別支援教育支援員を配置していただいた。スクールカウンセラー便りやHP</p>	<p>③ 希望者は少なかったが、12月のスクールカウンセラーによる全生徒対象のメンタルヘル</p>	<p>③-1 希望者が少なかつた理由は何か、相談体制が整ってきたのと、運営の在り方を検討していただきたい。</p>	<p>○ 相談支援体制をより身近なものとして利用できるよう案内するとともに、生徒への対応について職員研修を実施するなど、</p>

	実践する。 (特支人権教育課)	で案内したが、相談しようと思う生徒は31.6%と低く、特定生徒の利用だった。	ルス講座が分かりやすく好評だった。	アプローチ方法について情報提供していきたい。
③-2 教員にポジティブな行動支援の理念の浸透を図り、この学校は居心地がよいと感じる生徒を80%以上にする。 (特支人権教育課)	③-2 教員が生徒一人一人に対して目配り・気配りをして、ポジティブな行動支援を行い、人権を尊重し合う居心地のよい集団を作る。 (特支人権教育課)	③-2 今年度は「視覚に困難を抱える生徒の理解」について職員研修を実施した。学校が居心地が良いと感じている生徒は、76.8%だった。	生徒によって居心地が良いと感じる者とそうでない者とで少し差がある。	③-2 生徒が楽しいと感じられる学校生活を送ることのできる教育支援が、多岐にわたり計画、実践されている。生徒間や教師との交流を深めることができている。
④ ④ 主権者教育に関する講演・出前授業等を1回実施し、消費者教育に関わる講演や出前授業を1回実施する。 (全年次)	④ 模擬選挙の実施や消費者トラブル等が身近な暮らしの中に存在していることをイメージさせるための講演や出前授業を実施する。 (全年次)	④ 主権者教育の出前授業を、1年次を対象に1回実施することができた。	④ 今年度は1年次で主権者教育の出前授業を計画・実施できた。	○ 気になる生徒については、情報共有・共通理解を図り、合理的配慮や必要な支援などを検討していく。 ○ 模擬選挙や役員選挙を通じて主権者教育を実施していく。

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策	
	評価指標と活動計画	評価	総合評価			
(2) ①	評価指標(数値目標) ①-1 性犯罪・性暴力等の根絶徹底、不適切な指導・体罰の根絶徹底、職場のハラスメント行為の根絶を図る。 (学校運営)	活動計画 ①-1 コンプライアンス推進チーム会議報告書の対策パッケージの効果的な活用と検証を図る。 (学校運営)	実施状況及び評価指標による達成度 ①-1 職員朝会や学期末のコンプライアンス研修でハラスメント行為や交通事故の根絶に努めた。	(評定) A ----- (所見) ① クリアデスクや管理職による積極的なあいさつや面談により、職員室の環境改善を実施した。自然と声を掛け合う場面が多く見られ、協働的で風通しの良い職場環境となった。	①-1 風通しの良い職場環境を徹底して作り、QOLを向上させることが重要である。 ①-2 コンプライアンス研修の回数が急増した理由は何か、コンプライアンス研修を強化することは大切だ。	○ 「不祥事根絶対策タスクフォースからの提言」やコンプライアンス推進室の資料を活用していく。 ○ 事例に基づいた研修や、ストレスの解消法やメンタルヘルスに関する研修を実施する。
②	②-1 外部講師を招いての教職員研修を学期に1回以上実施するとともに、校外における研修への参加	②-1 研修の内容や方策の見直し、専門機関との連携等を図り、より効果的な研修を実施する。	②-1 外部講師を招いて全校コンプライアンス研修、メンタルヘルス研修会の教職員研修を実施し、教	② 研修内容が充実しており、コンプライアンス研修、メンタルヘルス研修会は重要なと思	②-1 コンプライアンス研修会は重要なと思	○ 校外における研修への参加を奨励し、教職員の資質向上を図っていく。

		(学校運営)	職員の資質向上を図った。	向上に繋がった。	う。	
	②-2 学校防災計画を生徒、保護者、教職員に周知し、防災避難訓練を年2回以上、地域と連携した防災関係の研修会を年1回以上行う。 (環境厚生課)	②-2 関係機関と連携して避難訓練や避難所開設訓練を実施し、防災士の育成を図る。(環境厚生課)	②-2 学校防災計画を教職員に周知し、防災避難訓練を2回実施した。防災クラブで簡易テントを設営し、ロープワーク、炊飯器を使わないごはんの炊き方などを生徒とともに教職員も学んだ。生徒1名が防災士資格を取得した。	避難訓練を学期末行事として2回実施した。平常の授業実施日に避難する状況では実施できていない。	②-2 防災避難訓練は実効性のある訓練をお願いしたい。生徒が防災士資格を取得したことは素晴らしい。この生徒さんを中心とした活動はあるのか。	○ 早期の準備と調整により、避難訓練の実施方法を、より現実的で効果的なものにしていく。
③	③-1 教職員のワークライフバランスの実現や、心身の健康に配慮する。 (学校運営) ③-2 管理職による教職員面談を年2回以上実施し、教職員一人一人への理解を深め、風通しの良い職場づくりを推進する。 (学校運営)	③-1 業務の効率化を図り、時間外労働を減少させるために定時退勤を促す。 (学校運営) ③-2 日常的に教職員間の対話を促し、何でも話し合える協働的な職場環境づくりと働き方改革を進め、教職員のQOL向上に努める。 (学校運営)	③-1 教職員への声かけを心がけるとともに、年次有休休暇の積極的な取得と定時退勤を促した。 ③-2 管理職による教職員面談を3学期に2回目を予定している。教職員一人一人との対話を通じ、風通しの良い職場づくりに努めた。	③ 月ごとに出勤簿システムによる勤務時間を確認し、時間外勤務の是正に向けて取り組めた。教職員間の対話を大切にし、教職員のQOL向上に努めた。	③-1 教職員にワークライフバランスの意識の醸成を更に図っていただきたい。	○ 勤務時間の客観的な把握の徹底を図ることで、時間外勤務の把握と削減に取り組む。 ○ 働き方改革や快適な職場づくりを一層推進し、さらなるQOLの向上を目指す。
重点		自 己 評 価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
課題	評価指標と活動計画	評価	総合評価	学校関係者の意見		
(3) ①	評価指標(数値目標) ①-1 「教養」の内容を精選するとともに、生徒の参加率を1~3年次は75%以上、4年次は55%以上にし、学習習慣及び基礎学力の定着を図る。 (全年次)	活動計画 ①-1 生徒の実態に応じて教材内容や方策を各年次で工夫するとともに、欠席が多い生徒には担任と年次団が連携して指導にあたる。 (全年次)	実施状況及び評価指標による達成度 ①-1 参加率は、目標に到達できなかつた。1年次71%、2年次60%、3年次65%、4年次53%。これ迄の教養への取り組み姿勢の改善や、学習意欲の喚起ができなかつた。	(評定) A (所見) ① 遅刻・欠席の増加が影響している。	①-1 「教養」の出席率の低下の原因を突き止め、具体的な対応策を講じてほしい。	○ 生徒の出席率の向上が課題である。基本的生活習慣の確立や基礎学力の定着を図りたい。
	①-2 集会や講演を年5回以上実施し、ルールを遵守する態度やマナーが身についたと感じる生徒を90%以上にする。 (生徒指導課)	①-2 専門機関と連携して、講演会を実施し、振り返りを通して学校におけるルールの遵守は社会のルールでもあることを生徒に理解させる。 (生徒指導課)	①-2 「交通安全教室」「非行防止講演会」「薬物乱用防止教室」「スマホ・ケータイ安全教室」の講演会を行った。生徒の肯定的な意見は、約84%だった。	生徒が興味関心を持つ講演会が実施できた。	①-2 集会や講演会は生徒が興味・関心がもてる内容がよいと思う。	○ 集会や講演会は、時代に即した生徒の興味関心を引くような内容を検討していく。

	<p>①-3 学校行事や生徒会活動で生徒が主体的に活動できる場を年8回以上設定し、自己肯定感や他者に共感、協調する態度を養う。 (特別活動課)</p>	<p>①-3 行事への参加や生活体験発表の作文・発表を通じて、自己理解や自己肯定感を深めるとともに、他者の考え方を理解し共感する心と態度を養う。 (特別活動課)</p>	<p>①-3 年間14回の行事や生徒会活動を実施した。実施方法や内容は、コロナ以前の形をもとに実施することができた。</p>	<p>学校行事や生徒会活動を通して、多くの生徒が交流を深めることができた。また、地域の方々との交流にも繋がった。</p>	<p>①-3 学校行事や生徒会活動、地域との連携を通して、生徒が交流を深めることができたのは良かった。</p>	<p>○ 生徒が主体的に考え、活動できるような企画・運営をサポートしていくたい。 生徒数の増加に伴い、活動場所の確保について検討する必要がある。</p>
	<p>①-4 環境や防災に対する関心が高まると感じる生徒を85%以上にする。 (環境厚生課)</p>	<p>①-4 校内外で美化活動を行う「ごみゼロキャンペーン」を年5回以上、防災クラブの活動を年10回以上実施する。 (環境厚生課)</p>	<p>①-4 「ごみゼロキャンペーン」5回、防災クラブ活動を15回実施できたので、環境や防災に対する意識を大いに高めた生徒もいた。しかし、生徒全体で、環境や防災に対する意識が高まると回答したのは62%であり、目標は達成できなかった。</p>	<p>クラブ担当教員や一部の生徒だけが意識を高めるのでは、組織的な防災力は不十分である。</p>	<p>①-4 環境や防災について真剣に考えて行動することが大事だ。</p>	<p>○ 環境や防災に関する知識・技能を習得し、実践できる生徒を育てるための指導法を、教員が学ぶ機会を増やす。 ○ 生徒有志による学校周辺美化活動を、次年度も継続して、より多くの生徒に参加を促していく。</p>
	<p>①-5 学校行事に「積極的に参加できた」という生徒の割合を70%以上にする。 (特別活動課)</p>	<p>①-5 各課程やしらさぎ中学校との連携、外部講師招聘事業などを利用することで、多彩な学校行事を実施し、より多くの生徒に他者との関わりや社会体験を経験させる (特別活動課)</p>	<p>①-5 学校行事に「積極的に参加できた」という生徒の割合が57.3%「やや積極的に参加できた」という生徒が30.4%で合計87.7%であった。</p>	<p>多彩な学校行事を開催し、充実感や達成感を経験させることができた。</p>	<p>①-5 生徒が興味関心を持てるような学校行事をお願いしたい。</p>	<p>○ 各課程との連携をさらに充実させ、地域との連携を図った活動に取り組みたい。</p>
②	<p>②-1 緊急連絡システムの登録者数を、生徒90%以上、保護者75%以上にし、連絡体制を整備する (教務情報課)</p>	<p>②-1 緊急連絡システムを活用する教員を増やし、生徒や保護者への連絡の徹底を図る。 (教務情報課)</p>	<p>②-1 緊急連絡システムの登録者数は、生徒91.2%、保護者78.2%であった。</p>	<p>② 登録者数は目標を達成したが、欠席連絡などの連絡はできないため、活用の幅は広がらていない。</p>	<p>②-1 教員が保護者と連絡を取り合ったり、出欠の連絡などの事務作業を減らす効果があるアプリの導入は効果的だと思う。</p>	<p>○ 個別の生徒連絡が多いため、電話等での対応が多くなる。更に効率の良いシステムになれば、使用頻度も上がると思われる。</p>
	<p>②-2 各校務分掌、部活動において年1回以上の情報発信を目指す。 (教務情報課)</p>	<p>②-2 校務分掌、部活動、年次等と連携し、積極的にホームページを更新し、学校の魅力発信を行い、地域に開かれた学校づくりを推進する。 (教務情報課)</p>	<p>②-2 校務分掌、部活動の担当者による記事の掲載の他、学校行事などの情報発信が行われた。昨年度よりも記事の掲載が頻繁に行われ、年度末には80回を超える見込みである。</p>	<p>昨年度は保護者の閲覧数(9.5%)が低かったため、夏期休業中の保護者面談の際QRコードを提示するように</p>	<p>②-2 情報発信は重要だ。学校の良さを積極的に発信していただきたい。</p>	<p>○ 今年度中にホームページの移行作業がある。これを機に、分かりやすく、魅力あるホームページにできればと思う。</p>

③	<p>③-1 個別面談を毎学期1回、第三者面談を年1回以上実施し、生徒理解を深めるとともに肯定的な声かけを行い、生徒や保護者との信頼関係の充実を図る。 (全年次)</p> <p>③-2 P T A 関連行事への保護者の参加を前年度比10%増を目指す。 (総務課)</p>	<p>③-1 個々の生徒の情報を共有し、生徒や保護者に伝えるとともに、学年通信やHP等で積極的に発信し、自己肯定感や共感的人間関係を高める。 (全年次)</p> <p>③-2 面談や保護者アンケート等を通じて保護者のニーズを把握し、P T A研修等を実施する。 (総務課)</p>	<p>③-1 個別面談はほぼ実施できた。保護者とも連絡を取り合い、信頼関係構築に努めた。情報発信は不十分だった。</p> <p>③-2 前年度よりも家族数名での参加者も増え、P T A研修会、体育祭、文化祭などへの保護者の参加は前年度比約10%増であった。</p>	<p>したが、思ったほど閲覧数は伸びなかつた(13%)。</p> <p>③ 毎学期1回以上の個別面談と夏期休業中に3者面談を実施した。</p> <p>P T A会長を中心、研修会は和気あいあいと活発な活動が実施できた。3課程の連携も図れていた。</p> <p>③-1 教職員同士の連携が十分に図られる中で、保護者、地域との連携にも取り組まれている。</p> <p>③-2 P T A 関連行事への保護者参加率向上の方策を講じてほしい。</p>
④	<p>④-1 地域の巡回を1日2回以上、あいさつ運動を月1回以上実施し、地域に愛され信頼される学校を目指す。 (生徒指導課・特別活動課)</p> <p>④-2 「ふるさと大好き！地域防災推進事業」に参加する生徒の人数を前回比10%増を目指す。 (環境厚生課)</p>	<p>④-1 教員が2人1組で校舎内外を巡回し、地域の人々と情報交換して関わりを深める。また、毎月10日を「中央あいさつ運動の日」と定め、生徒会役員を中心として生徒や教職員、地域の人々にあいさつを行う。 (生徒指導課・特別活動課)</p> <p>④-2 避難訓練等を通して防災意識を高めると共に、地域と連携した防災推進事業を計画し、地域の人々との交流の機会とする。 (環境厚生課)</p>	<p>④-1 1日2回、行事の際も隨時巡回を行った。定期的に巡回し、地域の方々と情報を交換した。また、毎月のあいさつ運動を通して、人間関係を築く上で大切なコミュニケーション能力を高めることができた。</p> <p>④-2 「ふるさと大好き！地域防災推進事業」に昨年度の参加生徒は0名であったが、今年度は1名の参加希望者があった。</p>	<p>④ 近隣地域でのマナー、あいさつなどで不十分な場面があった。今後継続して指導していく必要がある。</p> <p>教職員、生徒、保護者、地域住民、近隣保育園児、校内の他課程とも協力して実施した。</p> <p>④-1 地域との交流は大切だ。地域でのあいさつ運動も充実を図っていただきたい。</p> <p>④-2 地域との交流を充実させることは、生徒の社会性を育むことにもつながる。この活動は今後も継続していただきたい。</p> <p>防災イベントは、3課程及びしらさぎ中学校との合同開催ということで、日程調整の難しさがあるが、生徒にとって貴重な体験の機会となるよう努める。</p>

「評定」の基準

A : 十分達成できた

B : 概ね達成できた

C : 達成できなかつた